

【緑地を楽しむ本】

『種から布をつくる』たくさんのふしぎ 2023年5月号

白井 仁文 / 熊谷 博人 絵 / 島田 耕希 写真



これは著者がワタの種を撒いて育て収穫し、糸を取り、植物で染め、布に織り上げるまでの本です。ワタは世界中で50種ほどあるそうですが、古くから日本で育てられていた品種は日本の気候に合っていて、育てやすいのです。

ワタを育てるときに一番大切なのはしっかり見ることです。見ることで虫から守ったり、丈夫に育てることができます。

ワタの花が咲いた後、実ができ、パンパンに膨らんでいって、はじけます。ワタの実 12Kg を種と繊維に分けると、種が9kg、繊維が3kg くらいです。種が多いのに驚きます。

糸にした繊維は植物で染めます。著者の身の回りにあるシュロ、ヤシャブシ、ビワ、ヨモギなどを使います。植物は採取した時期によっても色が異なります。

どんな模様の布に織るか、色の組み合わせを決めた設計図を書いて、糸を機にかけ、織ります。

この様にして、1年かけて1枚の布が出来上がります。何と心豊かな暮らしでしょう。植物は何と多くの物を人間に与えてくれているのでしょうか。

ワタの繊維はワタの種にとってはどんな役割を果たしてくれているのでしょうか？やっぱり布団でしょうか？

(齋藤好子)